

令和6年度保幼小エリア連絡会公開保育&協議会のまとめ(その1)

宮古島市教育委員会

1. 日時: 令和6年7月29日(月) 9:30~ 2. 場所: 伊良部こども園

3. 公開保育について

ねらい: 様々な生き物の観察や触れあいを楽しむ中で、生き物との触れあい方や命の大切さを感じる好きなことを通して、楽しさや気づきを共感しあい、友達の良さを見つけたり、認めたりする。

【子どもの姿】



やごのお墓づくり



砂遊び



水遊び

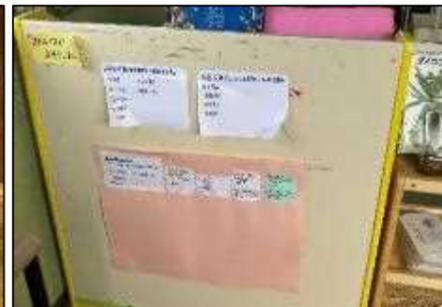
【環境】



飼育コーナー



大根の成長の様子



観察コーナー

4. 協議会について

- ①子どもたちの興味関心を持って楽しんでいること: **ピンク**
- ②遊びの中でどのような力が育とうとしているか(10の姿を手がかりに): **黄緑**
- ③育ちを支える先生方の関わり・環境構成(遊び混むための手立て): **黄色**



◇1グループ

<p><水遊び・砂場遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をいかに貯めるか ・水で印をつけて楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・数量図形、標識や文字などへの関心感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な(扱いやすい)道具の用意 ・水が貯まるように砂の下にシート(環境構成)
<p><虫取り・飼育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫探し ・生き物飼育(命の大切さ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳性・言葉による伝え合い ・自然との関わり・生命尊重 ・豊かな感性と表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーの充実(図鑑、生き物) ・一緒に働かせる、困ったときに提案する。

◇2グループ >

<p><砂場水遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い切り楽しむ ・道具を使う面白さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力作り・社会性 ・言葉・人間関係 ・思考力の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な(扱いやすい)道具の用意 ・水が貯まるように砂の下にシート(環境構成)
<p><虫取り、自然・生命></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命への興味関心 ・虫や植物の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力の芽生え ・自然との関わり・協同性 ・道具の使い方を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーの充実 ・変化の様子を写真や記録で掲示

5. 宮本先生からのフィードバック

<p>○人間関係について</p> <p><子ども同士の関係性をつくっていく></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が他者に認められていくための手立て。人間関係をどのようにつくっていくか考えていけるようにする。 ・子どもが何かを伝えたい時、ベクトルが子どもに向かうようにすると良い! ・対大人じゃなく、子ども同士に向いていくといい。 ・友達同士で語り合う関係をつくる。 ・横のつながりの中で、一人一人がどんな繋がりを求めているか、遊びの中で子どもの育ちを丁寧に見取る。 ・環境と子どもの相互作用を丁寧に捉え、具体的に問い直せるのか、子どもの関係がどうなのかを見直していくことが大切。 	<p>○協同性について<小→大グループとなるための手立ての工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでつながるのは難しい。遊びが繋がるということは、経験がつながる。具体性のある経験の連続性が集団につながっていく。つまり、大グループにするためには遊びをどう仕組んでいくかが重要。 ・小さな目標を子どもなりに見つける(遊び、今日の授業)過去の繋がりの中で、過去の経験を生かす。今の遊びに重ねての保育者の立ち居振る舞いがどうかを考えてみる。
<p>○小1担任からの質問...Q 折り合いをつけるためにどうするか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り合いは4歳後半ごろから発達してくる。幼児期にどんな経験をつけるか。出来ないで終わらせない。出来ないなりにどうしようか、見通しを持たせる。子どもの満足感を教師がどうつけていくのか考えることが大切。 ・幼児期は1つの遊びをじっくりできる。それが大事。小学校では、授業時間・休み時間などでじっくり遊べないこともあり不消化感がある。小さい自己充足感をどう持たせるか。次出来るようになるからと期待させる。遊び込むような満足感、多様な満足感、ドキドキ、ワクワク感が感じられるように! ・折り合いをつけるのは、遊びの充足だけではない。折り合いを多様に保証していくことも大切。 	

令和6年度保幼小エリア連絡会公開保育&協議会のまとめ (その2)

宮古島市教育委員会

1. 日時: 令和6年7月30日(火) 9:30~

2. 場所: 東保育所

3. 公開保育について ねらい: ○ 一人一人のこどもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。
○ 友達や保育士と、工夫したり協力したりして、一緒に活動する楽しさを味わう
○ 生活の中でイメージをゆたかにし、様々な表現を楽しむ。

【子どもの姿】



なわとび



あさの集まり



ぼこぺんあそび



4. 協議会について

※ 参加者が公開保育で一番気になった場면을『写真』を使って共有。

その中から1枚の写真を選び、その写真を元に協議を深めた。

※ 宮國、砂川、平良がファシリテーターとして、各グループに入る。

協議の視点

- ① 「遊び」を通してどのような力が育とうとしているか(ピンク)
- ② 幼小接続から、育ちを学びにつなげるための手立て(水色)



◇1グループ「朝の会」の場面から



- ・自分の思いを言葉で伝える
- ・人の話を聞く、待つ態度
- ・気持ちを調整する
- ・コミュニケーション力
- ・見通しを持った生活
- ・生活リズムを意識する

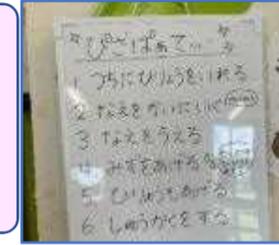


- ・教師対子どもだけでなく、子ども同士の関係性が大事
- そのために、交流会等で集団になる機会をもつ、場慣れさせる

◇2グループ「ピザパーティ」の掲示から



- ・協同性(友達と取り組む)
- ・自然との関わり、食育
- ・主体性
- ・コミュニケーション力
- ・社会性
- ・数の概念



- ・野菜を育てることで、数、大きさ、重さを体験として知る。
- ・季節を知る
- ・育てた野菜を半分に切ったあとどうなるのか予測する

◇3グループ「ぼこぺんあそび」の場面から



- ・折り合いをつける、我慢する
- ・友達と対話(相談)をして遊ぶ
- ・ルール理解、順序性
- ・集団として動く力
- ・友達と協力する
- ・遊びの工夫



- ・ルール説明等の言語力
- ・ルールのある遊びを繰り返す中で、新しいルールを考えたり話し合ったり認める
- ・見守ることも手立て

5. 宮本先生からのフィードバック

○なわとび遊びの場面から

- ・ 個々がなわとびの回数だけじゃなく、誰がどれくらい跳んだか自分と他者の比較の中で、自分はどれくらいの回数跳びたいのか自分の具体的な目標を立てやすい援助が環境構成として必要。
- ・ 回数を数として可視化する。すごい!という評価のための可視化ではなく、子どもなりに見通しを持つ、挑戦意欲を感じられるための可視化。記録として残す。
- ・ 教師だけが数えるのではなく、みんなが数えることで、遊びの中で数に出会っていく。なわとびを通して何を育みたいのか、個々の挑戦だけでなく、協働的な挑戦、他者を認めながらも自分なりの目標を意識していくことにもつながる。

○集まりの場面から

- ・ 子どものやりたい遊びに寄り添うこと、この子たちの泥んこに対する思いがどれだけあるのか、昨日からやりたい!という思いで、今朝登園してきた子どもの思い等について考えてみる。本当に保育で大切にしたいこと、この時期の子どもに何を育てたいのか、どろんこ遊びの経験が、この子たちにどれくらい必要なのか等。
- ・ 自分と違う見方考えを他児が持っている、多様な考えある、違うからこそいろんな考えがぶつかり合う...それが面白い!ということが、協同性につながっていく。自分と違う他者をどれだけ受け止められるか。
- ・ 話しあいの場面で、お互いの顔が見える環境になっているのはとても素敵だった! 集まりの場が保育者へ伝える報告だけの場ではなく、友達に伝えていく場となり、友達に伝えたい!共有したいという機会がもっとも増えていくと良い。

○ぼこぺん遊びの場面から

- ・ こども同士のパワーバランスをしっかり見取る。いつもリーダー的な子が常に一番じゃられないという経験を意図的に入れることで、関係を組み替えていくことも援助の一つとしてある。また、自分たちだけのルールでは通じない異年齢を入れてみるとどうなるか等、いろんな場面であえてぶつかっていく壁を保育の機会として与えていくことも大事。子どもたちの関係性が深まっているのがよく見えたからこそ、関係性が凝り固まらない、意見をぶつけ合えるような風通しの良い関係性にしていくことも大切!

令和6年度保幼小エリア連絡会公開保育&協議会のまとめ (その3)

宮古島市教育委員会

1. 日時: 令和6年7月31日(水) 9:30~

2. 場所: 西城幼稚園

3. 公開保育について

- ねらい
- 夏の自然に興味・関心を落ち、触れていく。
 - 夏ならではの遊びを友達と関わって十分に楽しむ。

【子どもの姿】



虫との関わり(1年担任に伝えたり)



色水遊び



集客を考えて看板を作る

【環境】



なんでも掲示板
(伝えたいこと、気づいたこと)



すぐ取れるように図鑑や虫取り道具を
を設置(玄関)



重さ、長さを調べたり比べたりで
きるコーナー

4. 協議会について

※参加者が公開保育で一番気になった場面を『写真』を使って共有。

その中から1枚の写真を選び、その写真を元に協議を深めた。

※宮國、砂川がファシリテーターとして、各グループに入る。

協議の視点

- ① 「遊び」を通してどのような力が育とうとしているか(黄色)
- ② 幼小接続から、育ちを学びにつなげるための手立て(水色)



◇1グループ「オクラ栽培を通して」の場面から



- ・自立心
- ・探究心
- ・道徳性
- ・社会性



- ・教師対子どもだけじゃなく、子ども同士の関係性が大事
- そのために、交流会等で集団になる機会をもつ、場慣れさせる

◇2グループ「色水遊び」の場面から



- ・比較する力
- ・探究心
- ・思考力
- ・数量・協同性
- ・自然への興味
関心



- ・野菜を育てることで、数、大きさ、重さを実体験として知る。季節を知る
- ・育てた野菜を半分に分けたあとどうなるのか予測する

◇全体「生き物との関わり」の場面から



- ・命の大切さ
- ・観察力
- ・思いやり
- ・調べる力
- ・自然への関心
- ・生き物の育つ環境など



- ・図鑑の活用→探究心、主体的な学び
- ・小学校でも虫や生き物とふれあう環境作りを!
- ・生き物を通じた共同的な学びの充実

5. 宮本先生からのフィードバック

○ 週案について

- ・ こどもの姿をしっかり捉えている、こどもを中心に保育を展開していることがよく見えた。

○ 環境構成について

- ・ 多様な図鑑を置くことで、子どもの興味のあるところで手に取りやすい場所に置く、長期的な環境構成が意識されていた。
- ・ 植物を育てることを通して、数量空間認識を意識していた。(秤、物差し等)栽培活動一つをとっても、何を育てたいかの意図が、環境の中にしっかり落とし込まれている→小学校につながる
- ・ 何でも掲示板: 保育者が言葉での共有だけでなく、こどもが気になったとき、いつでも目に見える環境

○ 遊びについて

- ・ 「探求」生活に興味関心を持ったところに自分自身の問いを持つ。知的好奇心を震わせる。生活の中にあるたくさんの不思議を、一人で、またはみんなでもやってみるって面白いという経験を培っていく。虫に名前をつけようという子どもの姿→愛着を持つ、自分とは違う生き物を自分の中に位置づける。



令和6年度保幼小エリア連絡会公開保育&協議会のまとめ(その4)

宮古島市教育委員会

1. 日時: 令和6年8月1日(木) 9:30~

2. 場所: キッズハウスたんぼぼ保育園

3. 公開保育について

【活動の様子】



虫との関わり



朝の会(日付、曜日、お休みの友達等の確認)



もじかずくらぶ

【環境】



職員共有のための会議の軌跡



種類毎に整理された廃材コーナ



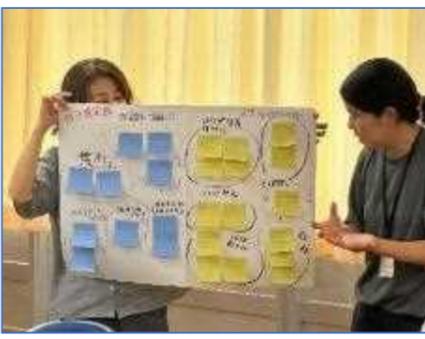
交流会ドキュメンテーション

4. 協議会について

※宮國、砂川、平良、奥平がファシリテーターとして、各グループに入る。

協議の視点

- ① 文字や数へ興味を持たせるための園の工夫について(黄色)
- ② 子どもの自己肯定感を高めるための工夫(水色)



◇1グループ



- 発展…お店屋さんごっこ、招待状、絵本作り、看板作り等
- 伝え合い…お手紙遊び、伝えたいことを書く、朝の会での日付や人数確認等
- 教師の声かけ…収穫物を数えたり長さや重さを測ったり、おやつを均等に配ったり、縄跳び等の数を数えたり
- 環境の工夫…五十音表の掲示、カルタやトランプ、絵本コーナー

◇2グループ

- ・文字遊び
- ・絵⇔文字(掲示する)
- ・興味のあるもの(生き物、植物等)から、名前や数を数えたり…
- ・活動の流れを表示(時間、やる事等)
- ・工作で形を写し取る→算数の形づくり



- 子どもの意欲「やりたい!」
- ・こどもが没頭していることをできるだけさせる。
- ・やりたいを実現させる
- 賞賛・子どもが少しでもできはじめた姿を見逃さない
- 横のつながり(子ども⇔子ども)

◇3グループ

- ・しりとり、カルタ、伝言ゲーム
- ・掲示物を文字とイラストで表示
- ・言葉探し
- ・自由に書けるコーナー
- ・教師の意図的な声かけ…遊びの中で必要感を感じさせる(*ごっこ遊び→看板、招待状等)
- ・手紙のやりとり(気持ちを伝え合ううれしさを感じられるように)



- 成功体験…子どもが何をすれば輝けるか見取る、成功体験を増やす等
- 友達…友達同士で素敵などころを見つけ合う、自分の気持ちを考える時間を設け伝え合う
- 教師、保育者…子どもを価値付ける、全体の前で褒める、成長を具体的に言葉で伝える等

◇4グループ

- 遊びの中で…ごっこ遊び、製作等で
- ひらがな表の掲示
- 正しい使い方、言い換え(○匹、○個、○枚等~)
- 言葉遊び…カルタ、言葉集め、
- 教材の活用



- 共有する…遊びの共有で認める、褒める、成長にも気づけるように。
- 保育者も一緒に!…一緒に楽しむ、共感する、スキンシップ等
- 周りから…担任以外の職員、保護者にも共有し褒めてもらう
- 活躍の場を持つ
- 友達にも良さを知ってもらう

5. 宮本先生からのフィードバック

【子どもの姿、集まりの時間から】

- ・ 小学校では、集団で動いていくということを考えると、今日の5歳児は1人、もしくは小グループで好きなものを探求していくという姿があった。もっと、みんなとやって楽しい、なんでだろう、不思議だねということが好きな時間の中に盛り込まれていくと良い。
- ・ トラブルの際、相手のことを考えられるということを大事にしていきたい。自分とは違う他者がこんな考えを持っている、それって面白いという自分の考えを上げられるということも味わっていく。自分と違う他者、自己調整ということも含め、自分と他者の存在の違いも含めて理解していくということも5歳児は広がっていく時期なので、そこを保育の中で意識していけたらいい。
- ・ 好きな遊びの時間の中で、この子のこれ面白いな、こんなこともできるんだという多様な発見をしていくことが大事。好きな遊びの時間の構成、保育者は見守るだけで、遊んでいるからいいかなではなく、意図的にこういう発達が生まれていくといいな、こういうところを培っていけたらいいなという願いが、保育中で環境の中に埋め込まれていくと、より素敵な保育になる。
- ・ 集まりの中で何月何日、昨日今日明日という今日の位置づけを理解する、みんなで共有するのはとても良い時間。
- ・ こどもが今日こういうことを伝えたい、こういう表現で伝えたいという、表現の多様性が認められることが大事。言い方を修正する仲間の働き方ではなく、こういう表現もいいよねというお互いの良さを認め合っていくなかで、「今日」という日にちや時間性を確認していくという持ち方もいいのかなと思う。
- ・ こどもがサイクルを意識しているからこそ、もっと自由に言ってみたら？そういう言い方でもいいんだよという中で、どんな表現の仕方が出てくるのかということ自体も面白くなっていくことが、小学校の中で多様な表現を獲得していくことに繋がったりする。決まった言い方ではなく、子どもたちなりの言い方を色々模索していくとより楽しい保育になる。



【文字との出会わせ方について】

- ・ 導入はとても面白かった！子どもから「い」の付く言葉がたくさん出た。この時間は、「ワーク」ではなく、連想ゲームで遊び。子どもが「い」のつくものをたくさん出してくる、発見するということはとても素敵。せっかく「い」にいっぱい出会ってきたところで、急に「ワーク」という大人が意図的にしつらえた環境に持ち込んでしまっていたところに、段差を感じる。
- ・ 幼児教育における「教育」は、小学校教育における「教育」とは違う。概念的な抽象的な理解が芽生え始める6歳にできることと、5歳までに発達しきることの壁があって、その難しさがある。乳幼児期は言葉のシャワーをたくさん浴び、音声言語というものから日常のいろんなものとリンクさせていくという力を上げていく時期。その中で、生活の興味関心、文字への興味関心が広がっていく、高まっていく時期。
- ・ 文字を細分化すると、「聞く・話す」ということと、「読む・書く」という4つの要素で構成される。日常的なやり取りの中で、「話す・聞く」という音声言語や、保育者等が読んでくれる、または自分で読んでみる絵本等で「読む」という作業が、乳幼児期には日常的に溢れている。
- ・ 「書く」という作業は、文字を操作すること。文字は抽象言語なので、抽象的なものを自分で操作するという力は、なかなか結びつきづらい。生活や遊びの中で、こどもが「書きたくなっちゃう」場面が多くある。例えば、看板や自分の名前等、身近なところで書いてみる。ワークは、こどもが興味関心を持ちづらいツールの一つ。今日の保育を見ると、ワークを持ってくるのが果たして妥当かどうかみんなで考えてみたい。
- ・ こどもたちが興味関心のあるところを大事にしながら、言葉のシャワーを浴びていく、認識のシャワーを浴びていく中で、文字への興味関心に向けていくのが、とても大事なこどもの発達のプロセス。
- ・ なぜ、幼児期の早期教育がいけないのかというのは、一足飛びになりがちだということ、そこを留保していただけたらいいなと思う。
- ・ 今日の保育においても、ほんとに素敵なこどもの気付きや芽生えがいっぱいあった。こどもが今立ち止まっているところ、本物を見ていくであろうというポイントも本当にいっぱいあった。その素敵な保育の中で、ワークが本当に妥当かどうか、先生方の工夫、環境構成の中で、ワークをしなくてももっとのびていくことがいっぱいあるんじゃないかなと思った。
- ・ 乳幼児期は何故遊びを通すのか、生活を通すのか、環境を通すのか…この時期は、具体性のある物から知的関心を深めていく時期であること、そして、遊びが具体性もあるし、概念的ではない、抽象的ではないからこそ、そこでこどもの興味関心が広がりやすい。
- ・ 5歳までに、遊びを通す、生活を通す、環境を通すという、乳幼児期が大事にしていることをもう一度立ち返りながら、日々やっている素敵な保育と、園の保育の理念と結びつけながら活動を構成させていくと、より素敵な保育になると思う。

【本日のまとめ】

- ・ 今日の保育においても、ほんとに素敵なこどもの気付きや芽生えがいっぱいあった。こどもが今立ち止まっているところ、本物を見ていくであろうというポイントも本当にいっぱいあった。その素敵な保育の中で、ワークが本当に妥当かどうか、先生方の工夫、環境構成の中で、ワークをしなくてももっとのびていくことがいっぱいあるんじゃないかなと思った。
- ・ 乳幼児期は何故遊びを通すのか、生活を通すのか、環境を通すのか…この時期は、具体性のある物から知的関心を深めていく時期であること、そして、遊びが具体性もあるし、概念的ではない、抽象的ではないからこそ、そこでこどもの興味関心が広がりやすい。
- ・ 5歳までに、遊びを通す、生活を通す、環境を通すという、乳幼児期が大事にしていることをもう一度立ち返りながら、日々やっている素敵な保育と、園の保育の理念と結びつけながら活動を構成させていくと、より素敵な保育になると思う。



キッズハウスたんぽぽ保育園の皆さんの笑顔がとても素敵でした！

令和6年度保幼小エリア連絡会 公開保育&協議会のまとめ(その5)

宮古島市教育委員会

1. 日時:令和6年8月2日(金) 9:30~ 2. 場所:下地こども園

3. 公開保育について ねらい : ○ 友達と試したり工夫したりして遊ぶことを楽しむ。
○ 自分が経験したことや感じたことを表現して楽しむ

【子どもの姿】



虫との関わり



色水遊び



気の合う友達と

【環境】



遊びの軌跡の掲示



いつでも虫の大きさが調べられるコーナー



重さ、長さを調べたり比べたりできる用具を陽依

4. 協議会について

※参加者が公開保育で一番気になった場面を『写真』を使って共有。

その中から1枚の写真を選び、その写真を元に協議を深めた。

※宮國、砂川、平良がファシリテーターとして、各グループに入る。

協議の視点

- ① どんな姿が育っているか(黄色)
- ② 育ちを学びにつなげるための工夫(水色)



◇1グループ「虫とり」の場面から



- 粘り強さ
- 達成感 ○言葉
- 自然への興味関心
- 協同性
- 人間関係 → 自己肯定感
- 学びの共有
- 一つの目標



- 認め合う
- 自己肯定感
- 表現
- 集団で共有する
- 生命の大切さ

友達と繋がる力が幼小接続で大切!【安心感】【人間関係】

◇2グループ「砂・水遊び」の場面から



- 言葉による伝え合い
- 思考力の芽生え
- 協力する力



○環境構成

◎人間関係...どの学年でも大切
◎多様な経験が学習に繋がる

◇3グループ「生き物との関わり」の場面から



- 探究心
- 文字、数
- 協力
- 粘り強さ
- 命の大切さ、愛情
- 物を大切に



◎環境構成
・すぐに調べられる環境、関連する本、図鑑を置く
・長さ重さを調べる道具の用意

***** 参加者全員で考えた 幼小接続に大切な事! *****

♡つながり♡ 好奇心♡ 体力♡ 期待感♡ 信頼関係♡

人的環境

物的環境

5. 宮本先生からのフィードバック

- ・ 園の中に、学びや遊びの軌跡がたくさん見える環境だった。環境に遊びの履歴を盛り込む、日々の保育に対するねらいや意図もよく見える。
- ・ 虫かご、測ってみようというところから、愛着世話だけじゃなく、長さの具体性を持って虫からどんな育ちを育みたいのかという教師の配慮が見えた。
- ・ 虫取りのシーンでも、ここから先は行かないように...ゴールを決めるルール。先生と確認したルールと興味関心が揺れ動く。自分がやりたいが突っ走るだけでなく、みんなのルールを守らなきゃという力がついていこうとする段階。突っ走るだけでなく、ルールの大切さを意識する。相手意識を高めていく。
- ・ 自分の大事なもの(バッタ)が逃がされる。間違えて逃がしてしまって、集中砲火を受け、落ち込む子をどうフォローしていくか、今後考えていくと良い。
- ・ 「はっぱちゃん」文字は読めるけどまだ書けない...でも文字を操作したい気持ちが出てきている。そのときの文字の合わせ方が大事。文字表だけでなく、絵本もツールとして活用できる。どんな引き出しを持っているか考えていくことが大切。